

第4回宇治市観光振興計画策定委員会

会議録

日時：平成24年12月25日（火）午前10時～

場所：市役所8階 大会議室

次第

1. 開会
2. 宇治市観光振興計画（初案）について
3. 今後のスケジュールについて
4. その他
5. 閉会

（資料）

- 資料1 宇治市観光振興計画（初案）
- 資料2 宇治市観光振興計画（初案）（概要版）
- 資料3 宇治市観光振興計画策定スケジュール（案）

< 出席委員 >

坂上 英彦	京都嵯峨芸術大学教授
森 正美	京都文教大学教授
神居 文彰	平等院住職
北村 善宣	社団法人 宇治市観光協会副会長
通円 亮太郎	宇治源氏タウン銘店会会長
中西 敏	宇治橋通商店街振興組合理事長
杉本 貞雄	京都府茶業会議所会頭
八木 一樹	公益社団法人 京都府観光連盟専務理事
山本 哲治	宇治商工会議所会頭
林 啓志	京都府山城広域振興局農林商工部長
木下 健太郎	宇治市都市整備部長
中谷 俊哉	宇治市教育部長
中村 俊二	宇治市総務部長
松田 敏幸	宇治市市民環境部長

事務局：宇治市産業政策室商工観光課
(株式会社グリーンエコ)

敬称略

《資料 宇治市観光振興計画策定委員会名簿》順
(委員長 副委員長)

【1.開会】

【坂上委員長】

おはようございます。年末のお忙しい中、ご参集いただきましてありがとうございます。この会議もいよいよまとめの段階、仕上げの段階に入ってまいりましたので、よろしくご審議のほどお願いいたします。今日は次第に基づきまして計画案を主に議論をしていただきます。次第に従いまして議事を進めさせていただきますので、円滑なご協議をよろしくお願いいたします。

最初の議題から入りたいと思います。次第の宇治市観光振興計画初案についてでございます。資料について事務局からご説明をお願いします。

【2.宇治市観光振興計画（初案）について】

【事務局】

《資料 1.2》の説明。

【坂上委員長】

ありがとうございました。前回までのご意見なり、関係者の方々との調整を踏まえられて、資料 1 ということでご説明をいただきました。どなたでも結構でございますので、この資料 1 について、ご意見をお伺いしたいと思います。

まず私から一言、表紙の写真ですが、平等院がないですか。

【事務局】

実は今、改修されていまして、平成 26 年の 3 月には、新しい形になるということもありましたので、あえて今回は外したというところがあります。

【坂上委員長】

というのは、今の時点で外されたのか、もしくは新しい写真ができれば、ここへつけていくというつもりか、どちらでしょうか。

【事務局】

今のところ、まずはこの形で行きたいと考えています。新しい写真ができ、例えば増し刷りが必要であれば、その段階で差し替えも含めて考えていきたいというふうに思っています。

【通円委員】

茶畑のこの写真も、どうですか。宇治らしくないみたいですね。

【森委員】

これは宇治市じゃないと思います。

【坂上委員長】

ちょっとそのあたり、写真の吟味をしていただきたい。私としては、平等院はこのデータに基づくと、まず外せないテーマだと思っておりますので。今回のコンセプトが宇治茶の都ということであれば、都の一番中心は世界遺産の平等院になると思っておりますので、ぜひ載せていただきたいと思っております。皆さんのご意見を踏まえて整理をしていただければと思っております。

【通円委員】

委員長、お茶を飲んでいる写真のほうがあったほうがよいかと。

【坂上委員長】

景色ではなくて、人の活動の方がよい。ある意味顔が見えるということが活動的に見えてよいかなと思っております。

【事務局】

ご意見を踏まえまして、また中で検討させていただきたいと思っております。

【坂上委員長】

では、表紙の意見が出ましたので、次ページ以降のご意見をお願いしたいと思っております。

16 ページのコンセプトについて事務局のほうから 3 案出ておりまして、ぼちぼち 1 案にしていけないと時期的にも難しいかなと思っておりますので、これについて皆さんいかがでしょうか。

【通円委員】

宇治茶の都という言葉は非常にいいと思っております。その次の、“みんなで入れる”の漢字ですね。これはどうでしょうかね。さんずい編の“淹れる”のほうはよく使っていますけど。それから、おもてなしの一杯と書いていますが、以前、京阪電車で宇治と伏見のスタンプラリーが行われ、キャッチコピーに宇治で一服、伏見で一杯という表現があって、昔からお茶というのは一服一煎とか、服すというほう言葉が使われていると思っております。いかがでしょうか。

【事務局】

まさに、お茶屋さんからのご意見として受けとめさせていただきたいと思っております。そういった修正も含めて、ぜひ、この場でご決定いただければというふうに思っております。

【通円委員】

淹れるという字が、ちょっと難しいですので、ルビを打たれたほうが、よりわかりやすいと思っております。

【北村委員】

観光協会でございます。宇治茶の都づくりという計画の推進のためのコンセプトを先生にご提

案いただいて、ちょっと申しにくいですが、宇治茶の都というのは、茶業界から、「どこやねん」ということを言われかねない。同じ宇治茶でも、宇治田原町は煎茶発祥の地、田辺は玉露、和束が煎茶など、その地域の取り組み方でいろいろとネーミングしたり、わかりやすい表現でアピールされています。都という表現がわかりにくい……。

また、宇治茶の郷づくり協議会は、京都府の林部長さんもいらしておられますが、茶業会議所などで推進していただいております、その辺のところの整合性というか、調整はどのようにするのか。問題や意義が出ないかなと心配しています。

【坂上委員長】

2点ご指摘いただきましたが、宇治茶の郷づくり協議会のほうからはいかがでしょうか。

【林委員】

京都府の林でございます。異議云々のところにつきましては、行政という立場もあり、業界の方のご意見もあるでしょうから即答できないと思っておりますが、ただ、名前として少し紛らわしい部分はあるのかなと。「宇治茶の郷づくり事業」というものを山城地域全体でやらせていただいているなかで、「宇治茶の都づくり」というと、外から見た方が郷と都が違って混乱といたしますか、「どう違うねん」という部分があるのかなと。また、事業を取り組んでいる方にとってもどうかという側面はあるとは思っております。もし、これを調整するとすれば、私どもの郷づくり協議会のほうでどうかということをご相談ないかと一存には言えないと思っております。個人的には、あまり混乱を起こすようなことは、あえてしなくてもいいのかなという思いがいたします。代案は何かあるのかというところではないですが、むしろ、同じような名前になってしまいますので、かえって特色がなくなるのかなという気は、ちょっとしますけどね。

【杉本委員】

今、初めて見させていただいて、林部長がおっしゃいましたように、確かに混合する部分があるかと思っております。ただ、それは複合的にプラスになるなら、いいとは思っております。ちょっと即答しかねますね。

【事務局】

事務局でも、宇治茶の郷づくり協議会とちょっとわかりにくいかなとは思ったのですが、宇治茶の郷づくり協議会は山城地域全体の話をもとに京都府で進めていただいております、このキャッチフレーズは、あくまでも宇治市としてどうしていくかという宇治市の中でのものであって、宇治市内の観光事業者さんが、これを十分ご理解いただければそれでいいのかなというふうには思っています。今回の計画は宇治茶推しということもあり、宇治茶の都づくりというのは、市民向けという意味で割と広くわかりやすいキャッチであるし、理解が得られるのかなというふうに事務局としては考えています。

【北村委員】

宇治茶の都ということで、宇治だけが都なのか、宇治市だけがという具合に解釈される場合があると思います。京都府でも、産地の特徴を生かしたいろいろな広報戦略をやっておられますので、その辺のところはちょっと危惧するところで、逆に、宇治茶の都ってどこだという聞き方をされるとと思います。例えば、花の都パリとかいう具合に、お茶の都宇治とか言うの風にはっきりとアピールしたほうがよいのではと思います。

【坂上委員長】

私の気持ちとしては、郷もあってもいいと思うし、郷と都の関係でいうと郷があるから都があるんじゃないかなと。非常に多様なものがこの地域にたくさんあり、ここが観光客にとってまず入り口になるんじゃないかと。構想的には都でいいのかなという気がしておりましたのでそういうご提案をさせていただきました。それにお茶といったら宇治では、次また静岡とか全国からクレームがつく可能性があって、いろんなところから逆にどうかという意見でできてしまい、オールジャパンで物事を考えないといけなくなる恐れもあるかなと。

そういう意味でいうと、私としては都というのは京都の歴史に培われた遺産がこの地域に残っているというイメージがあり、自信を持って宇治の方々が宇治茶の都とおっしゃっていただけ、さらに素晴らしい場所になるんじゃないかと思いますが。

【通円委員】

私は宇治茶の都で賛成です。和束町はこのごろ和束茶としてPRされていますし、宇治田原は宇治田原で宇治茶製法の発祥の地としてPRされておりますし、田辺も宇治茶というより田辺玉露して売り出しておられます。何かよそが、宇治茶以外のことで売り出そうとしているのを見ますと、やっぱり宇治が宇治茶の中心、都という中心やと思うんです。宇治茶の郷というのは様々にあって、郷があってもいいと思うんです。でも、都は1つなんだ、宇治市なんだということで、宇治茶の都で私はいいと思うんですけど。

【中西委員】

私はもっと商店街とか、その辺の地域の人、すべての人がやっていけるようなものがよいと思います。神居さんがおっしゃってたお茶尽くしという言葉、例えばお茶尽くしの都市づくりとか。そうなってくると私も、ものすごく参加しやすいんですね。この宇治茶の郷とか言われたら、我々の商店街はお茶屋さんがおられるけれども、そのほかの人はどういうふうに商店街をつくっていくんやという感じです。もう少し、楽なカジュアルな考え方でやっていただけたらなと思います。これは1つの意見ですけど。

【坂上委員長】

都というイメージ的には、京都に5,000万人来るうち、こっちも京都の歴史を支えている重要なエリアなんだ、宇治に来てほしいんだ、というニュアンスを私としては込めたいなと思っています。

【北村委員】

せっかくのご提案を、私の一言で、ちょっと時間をかけていただいて恐縮です。私も、先生がおっしゃいますように、都というのは非常に響きも素晴らしく、京都宇治にふさわしい言葉だと思います。宇治茶でも都茶でもどっちでもいいじゃないかと、昔から私は思っていたぐらいです。しかし、この周辺の環境、そして団体、地域、宇治茶の郷づくり協議会というものがスタートを切っている。その辺のところ。行政下においてもいろんな各団体との調整をしていており、現場へ出てみてもめるとか、そういったことをちょっと気にしておりますので、うまくお願いしたいということでございます。委員長、よろしくお願いいたします。

【八木委員】

観光連盟でございます。宇治茶の都づくりということで、宇治茶をキーワードにして、新しい都をつくるという意味もあり、新しいまちづくりをしていく意味もあるかと思います。例えばその都というのが問題でしたら、宇治茶の都を「まち」と読ましたり、ルビを「まち」にしたり、漢字は都でまちづくりとするなど、何かまちづくり、宇治茶で新しいまちづくりをするというようなイメージであればいいのかなというように思います。これをいろいろと説明する際には、宇治茶ということ 키워ワードで新しいまちづくりをするというようなことで浸透させればいいのかなというように思います。

【坂上委員長】

ありがとうございます。第2案、第3案について、ご意見が出ていないので、第1案を前提に、あとでダメと言われないように事務局で調整してまとめてもよろしいでしょうか。

【森委員】

この案を見せていただいてから、ずっと何かストンと落ちないので、考えていました。代案がなかなか考えつきませんでした。都という言葉は格調が高くて良いということと同時に、先ほど中西さんがおっしゃったように、市民参画型でやっていくといったときに親しみを持っていただけたかというバランスが、まず1つはあります。ただ、ゴールイメージとしては、宇治茶の都を目指すのだという絵が描きやすいとも思うので、もし、それを使うとするならばその前に何かもう少し柔らかくなるイメージがつかないと駄目なのかなと思います。

宇治茶の都も、おもてなしも、ちょっと堅いというか。おもてなしというのは確かに大事だけど、今からおもてなしと言われてもというのもあるって、もう少し若い世代の方たちにも関心を持っていただけるような形が良くて、かしこまってないと言ったらいいでしょうか。宇治茶というのは、やっぱり格式があるということと大事にしつつ、もう少し親しみがある感じがいいかなと思います。それで、何か英語に訳したらどうなるんだろうと、これはインバウンドのことを考えたときに、どういうふうに訳すんだろうというのを、ちょっと考えていて Green tea Capital ですか。キャピタルという言葉はちょっと政治的な感じがあるので、何かこれをどういうふうに英語に訳して発信するのかな、そんなことは考えてないのかなと思ったりして。そうすると、単純におもてなしの完成ゴールは笑顔があるというイメージなんかなというふうには思うんですね。

だから、ちょっと柔らかくなりすぎるんですけど、笑顔が集うとか、笑顔あふれる宇治茶の都とか、こういったちょっとワクワクするような、楽しくするような感じにするか、もうちょっと宇治らしく、ほっこりするような感じにするか。この辺が難しいなと思います。だから、英語訳や、中国語とか、韓国語とか、ホームページとかでも多言語で発信しないといけないと思うので、そこも含めて考えていただきたいかなと思います。

【事務局】

今回のコンセプトは、我々もいろいろ悩み、悩み抜きまして、絞り出して、こういう案を出したところです。今回はあくまでも、できたら市民の方に、これからの観光をどういう形で進めていくかを理解いただきたいというふうに思っています。外に発信するというイメージじゃなくて、宇治市の観光はこういうふうに進めているんだということを、市民の方、観光事業者の方にわかっていただければということをメインに考えてきました。一番いいのは、コンセプトが外にも発信できて、中でも理解を得られるということがいいのかなと思うんですけども、今回は特に、計画をつくって推進していくということが一番大事になってくるので、それをする上でのコンセプトというふうに考えてきました。

【坂上委員長】

森先生がおっしゃられたサブタイトルについては、広報的にいろんなトーンで使っていていいと思います。チラシにやるときとか、あるいは、対象によって若干変えたりとかいうように。このサブタイトルは、いろいろ変化させて自由に使ったりする可能性があると思いますし、そこでニュアンスをできるだけ入れていけるような形が望ましいかなと思います。ちなみに、キャピタルというのは観光戦略で、シンガポールではアジアの観光首都を目指すと言っており、ヨーロッパではほとんどが地方分権されていますので、それぞれごとのテーマを持った、自分ところが首都だという言い方を結構しています。

【森委員】

キャピタルと言っちゃうともものすごく保守的な意味になるんです。私的には、宇治の良さってやっぱりシンガポールのような都会的なイメージではないので、都づくりというのが何となくピンと来なかったんです。宇治茶の都づくりだと、あまりにも宇治茶の郷づくりとかぶりすぎるので、私自身は、ちょっとこのままじゃなくて、どちらかというとな案1だったら案2のほうがいいかなと思います。やっぱり案1は、サブタイトルもメインタイトルもお茶なので、お茶に関係のない人は入れない感じになってしまうと思うんですよね。今回は観光でお茶がメインですが、でも、お茶だけじゃないところもありますので。

【神居委員】

私は実はこのコンセプトについては、最初送られてきたときに特段意見を持っているわけではございませんでした。ただ、今の議論を聞いておきますと、それぞれに一理あるなという思いがございます。委員長が言う都という言葉に非常に力点を置かれているということ、逆に、この都

という言葉に対して非常に違和感を覚えている委員の方々も多くおられるということでございますけれども、もともと、このコンセプトというのは、誘客のキャッチではないということが最初に言われておられました。いわゆる、計画推進の上での市民への理解を助けるものであるということでありました。ということで、宇治のお茶に関係する人以外の人も関われるということであるならば、中西委員がおっしゃったことというのは非常にわかりやすくもありますし、あと、北村委員が言われたキャッチ的な言葉も非常に受け取りやすい。ということで一応、代案ということで私も1つだけ出させていたきたいと思います。1、2、3ということで、案として出させていただきましたが、宇治茶という言葉と1と3を混ぜて、例えば宇治茶尽くしの歴史のまちとか、そんなのはどうかなと思います。都というのはエンペラーがいるところが本当の都のはずですけれども、森委員が言われたことが正しくて、どうしても宇治は離宮であるというところがあると思うので、例えば宇治茶尽くしの離宮の郷とか、そんなほうが私は個人的にじっくりくる。観光に従事しているものとして、案として出させていただきます。ただ、これは外向けのキャッチではなく、委員長が言われている外向けのキャッチは市民公募でも良いと思っています。むしろ、私たちの役目というのは、観光振興計画策定を、いわゆる市民に提示するという大きな目的がありますので、内容がわかりやすくするための結果ということであるならば、中西委員が言われた宇治茶尽くし、そして、委員長が非常に推しておられる都ということは、やはり離宮かなと。もしくは、森委員が言われることは歴史のまちかなということで、それらを組み合わせ、もう一度だけ事務局で練って持ち回るか、何かをしないと、今日では多分まとまらないと思います。委員長、いかがでしょうか。これだけは持ち回ったほうが良いような気がします。

【坂上委員長】

ありがとうございます、委員長の仕事を代役していただきまして。では、まだニュアンスを含めてご意見がありましたので、もう少し事務局のほうに宿題という形でご検討いただいて、また、関係の方々のご調整いただくということで、事務局のほう、よろしいでしょうか。

【事務局】

今日いただいた意見も含めて、再度まとめます。

【坂上委員長】

皆さんの意見も反映させた上でまとめさせていただければと思いますが、よろしいでしょうか。

(「はい、お願いします」の声あり)

【坂上委員長】

ありがとうございます。本日の中心のテーマを議論していただきましたので、今後、少し検討して整理をしてまいりたいと思います。どうぞ。

【神居委員】

今日の議題は、この委員会でいわゆるパブリックコメントに向けての初案について、最も時間を割いて話し合うということだと思いますが、そのことについてよろしいですか。

【坂上委員長】

はい、ぜひ今のテーマ以外のことについてお話をお伺いしたいと思います。

【神居委員】

実は私、コンセプトよりも、この初案の大まかなところで非常に気になるところがございます。そのことについて意見を言わせていただきます。1月末にはこれをたたき台としてもう少し練った上でパブリックコメントが行われます。パブリックコメントを受けた上で、この計画がいよいよ起爆剤として新しい宇治の観光を公開していこう、発信していこうということになると思いますが、委員長も含めて私たちの委員の個別のそれぞれさまざまな意見を言わせていただきましたが、それが見事にすべて反映していなくても大まかに合意できたものが、この計画に入っていると思われておられますでしょうか。いかがでしょう。観光振興のための今後5年間に向けての道筋をつけたものができているでしょうか。

説明がありましたが、私は今までの3回の会議の中で、何度も観光協会に対する比重が大きいということを伝えさせていただきました。ヒアリングをした結果、観光協会を受けていただけということになってはいますが、それぞれのアクションプランを見ると、やはりまだ観光協会が実施主体として非常に大きな位置を占めている。本当にこのままパブリックコメントを取った上でよいものとなるのかどうか。

また、メインテーマである宇治茶のまちづくりということをしていくということで決めていながら、アクションプランの中のいわゆる新たな観光コンテンツの開発の部分、宇治茶についていかがでしょう。見ると、どうも宇治茶の新しいアクションプランについては、ほとんど継続というところになっているような気がするんです。宇治茶ということについて本当に計画・実施でいいのか。また時代に即した情報発信についても観光協会が計画・実施となっている。私たちはそれについて非常に問題があるんじゃないかということも言ってきたつもりでございます。観光の発信というところを庁内でいろいろ考えたとおっしゃっていますが、そのあたり、本当にこれで良いのだろうかというふうに、私自身思っています。

また、太閤堤のことも設計・整備ということですが、私たちは、より有効な利活用、もしくは違った考え方もできるんじゃないだろうかということをして市に対して提案しようという意見が出たと思いますが、太閤堤も設計・整備ということで5カ年になっている。そういうことを含めて、もう少しだけ練ってもいいんじゃないかなという気がいたしました。

コンセプトにもかかわるかもしれませんが、観光で宇治茶ということをして前面に出して、これからこういう形で行くという姿勢を宇治市が強く打ち出すのであれば、本当に大胆な宇治茶ということがわかるアクションプランをもう少し練ってもいいんじゃないかなというふうに思います。

それと最後の第4章に出ていました推進委員会というところ。ここの部分がやっぱり前面に出て、これから宇治市の観光というのは宇治茶を基にして、そして市民も含めた、そして行政もかかわった推進委員会というのがつくられるよということをして前面に資料の中に出さないと、きっと

パブリックコメントを取っても、市民からなかなか意見が出にくいと思います。もっと宇治茶が中心で、推進委員会をつくるということ、これについて市民、どう思いますかというような出し方をするように、取り組んでいかないといけないのではないかなという思いがございました。

また今までの5カ年と違って大きく変わったところ。これまでの源氏物語のまちから宇治茶のまちになるということ、そういったことも含めて、場合によって市民から源氏物語ミュージアムを宇治茶ミュージアムに変えるなんていう意見が出るかもしれませんし、それは非常に逆に面白いということなので、そういった意見が出せるような形にする。推進委員会についても、そういったものをつくって宇治市の観光を進めていこうよ、ということを書いてこの会議にかかわっているの、推進委員会に意見が吸収できるパブリックコメントが出るような、そんな計画書である必要があるのではないかなということ、全体を俯瞰して思いました。そんなところですよ。

【事務局】

実施主体が観光協会ばかりじゃないかということで、前回もご意見いただきました。ただ、実施主体については、いろんな形で観光協会に入っていていただく必要はあるんですけども、主たる実施主体といいますが、それぞれについて主体的に進めていくのは必ずしも観光協会だけでなく行政である場合もありますし、茶業の関係である場合もありますし、商店街で進めていただくものもあると考えています。本日の資料にはつけてはいないんですけども、専門委員会なんかでは、実施主体はどういった団体が進めていくんだ、その中で観光協会としても協力できるよといったことで、一定の理解を得ているところでございます。観光推進に当たっては、観光協会やはり重要な役割をしていただく必要があるということでございます。

それから宇治茶のところ。大きく宇治の観光資源として歴史遺産であるとか宇治茶、それから景観、それと源氏物語、大きく4つでやっていきたい。過去の20年間につきましては、市として源氏物語を主体的にやっていたよといったところです。ただ、今後の5年、10年については観光の面からは宇治茶をメインにしていこうといったところで、宇治茶をというところを1本化して、最初のテーマに掲げさせていただいて、その中のアクションプランでは、これでは不十分ではないかというご意見はあろうかとは思いますが、関係する団体との話の中で、今出せるのはこの程度であったといったところです。今後も、ご指摘ありましたように、推進委員会あるいは連絡協議会といいますが会議の中で具体的にどう進めていくかについては検討を進めていきたいというふうに考えております。

【神居委員】

よくわかります。ですから、きっとパブリックコメントに出すときに推進委員会をつくるよとか、キャッチではないですけども、源氏物語のまちから宇治茶のまちへとか、そういったことがわかるような資料でコメントをいただいて、そして最後の委員会に向けて私たち、進んでいったらどうかなと思います。ただ、どうしても気になるのは、21ページの宇治茶のこと、これが宇治茶の郷づくりの構想推進、その他は継続・実施なんですよ。宇治茶の今までの取り組みが、私たち、不十分だと思うからこそ、ずっと意見を交じ合わせてきたような気がしますが、継続実施というふうにポンと書かれてしまって、あと事務局が言われたように各ワーキンググループ

で考えて、それをしていくんだよと言われれば、そうですけども、なかなかこれはちょっと委員をずっとしてきた者として、この言葉で私たち、総括されて良いかなという思いはございます。

【坂上委員長】

ありがとうございます。全体を通してのお話をいただいておりますが、今のご意見に絡めてご意見、いかがでしょうか。

【森委員】

今、神居委員のご発言のお茶のところを、どれくらい事業として出すかというのは、専門委員会でも結構議論がありました。つまり、例えば、この21ページの と の書きぶりをご覧いただくと、実は の内容の中には含まれるような内容になっている。つまり、もっと具体的な項目が、例えば宇治茶を生かしたサービスといったときに、ほとんどの商店街の店舗では宇治茶の無料サービスが受けられるとか、試飲ができるとか、それくらい具体的なことをズラッと書くと、確かにアクションプランとして市民目線から見ると、大層わかりやすい。ただ、それを現時点でどれくらい書き込めるのかといったところの調整が多分、今のところ、まだ進んでいないということ。あと、どれくらい具体的なところまで書けばいいのかということ。私も、給茶スポットだけが何か具体的で、給茶スポットをつくるというのは会議所が取り組んでいらっしゃる全体的な事業なので、1つの事業名でしかないものが頭に出ているという違和感はある意味でこぼこしているのですね。なので、専門委員会でも、どっちがいいんだろうという話になりました。だから、これを読んだときに、やっぱりその辺が伝わってこないということであれば、もう少し具体を落としていくという必要があるのかなというふうに思います。

【林委員】

ちょっと神居委員の発言の中にもありましたので、今の同じ21ページ、宇治茶のまちづくり構想の推進というのが入って、継続になっているというご指摘があったんですけども、先ほど申しましたように、宇治茶の郷づくり構想そのものは山城地域全体の構想でございまして、当然、府もやらせてもらっているわけですね。それをこういう並び方をされると、市民のから見れば、郷づくり構想というのは宇治市さんが実施しているものというふうに混乱するかなと。当然、宇治市さんは郷づくり構想の一員でありますし一緒にやらせていただく、これは間違いはないんですけども、そのあたりの心配をいたしました。

【坂上委員長】

ありがとうございます。よく整理の仕方として、広域事業のほうからというのを整理するというのがありますね。広域的に取り組んでいるものは広域的に、単独事業なのか広域事業なのかという整理を少ししておくというのは、誤解がないということなので。もう1点は、神居委員がおっしゃられた中で、確かに今までやってこられた事業を継続していくことは、そこに人がおられて事業があるのももちろん必要あると思うんですけど、計画を立てるときに重点事業とか、シンボル事業とか、コンセプトや今回新たに出ていくものを総合的に、シンボリックに、これを重点的

に取り組んでいきますよというような事業を体系的平板に表現するのではなくて、そういう項目整理をして、少し市民の方によく理解をしてもらおうというやり方もあるかなとは思いますが。今回の計画で新規というのは、どこになるんでしょうね。よく行政資料で丸新と書いて新規事業という表現をされることがあると思うんですが。神居委員がおっしゃる、今までやってきたことと、それを少し強調しているだけなのか、新しく今回この計画に基づいて取り組んでいくんだという新規事業はどれなのかという整理も、若干必要なのかなという気はいたしますが。事務局いかがでしょうか。

【事務局】

新規事業も幾つか、例えばフィルムコミッションであるとか、市民観光デイであるとか、インバウンド対策の強化とか、おもてなしの講座の部分なんかは新規なのかなというふうに考えています。確かに今までご議論ありましたように、それぞれのアクションプランに割と細かく書いてある部分と、割とざっぱに書いている部分があるので、そこらをこうしたらできるんじゃないかというところは具体的に書けるんですけども、例えば商店街でやっていただく、茶業のほうでやっていただくといったところは、余りちょっとこの段階の調整の中では具体的に書ききれなかった。ただ、ぼんやりした形ですけども、それは進行管理の中で、もう少し具体性を持たせて実施に向けて調整していきたいというふうに考えているところです。

【坂上委員長】

21 ページの7 番のタイトルは、具体的なというのは取ったほうがいいかもしれないですね。単なるアクションプランのテーマだけを出しているというふうに少し表現したほうがいいかなと思います。専門委員会のほうではシンボリックなものとか重点的なニュアンスとかという、その辺の議論は特にございませんでしたでしょうか。

【森委員】

全体的な構成や形自体は、この4つの柱の中にサブ項目を置いて、そこに具体的なアクションプランを落としていくということで、もう合意されて進んでいるというふうに思いましたので、特にどれを重点にするという話はなかったんですけど。私や神居委員もおっしゃったように、すぐ実現できることと、そうでないことというのが、かなり差があります。それから今まで、必要度とか、何が緊急性が高くて、新しい企画はどういうことをしようかということのを恒常的に考える母体というか場もなかったのが、結局、いろんな関連団体がやっていることを取りあえず入れてあるという形になってしまっているというのが実情なんじゃないかと思います。

あと、この21 ページの については太閤堤に関係するところなんですけど、実は私自身、太閤堤に関する歴史的風致維持向上協議会の委員なので、その場でも申し上げたのは、まさに市民の方にかかわっていただく、市民に還元していく、市民に参加していただくというような意味でも、この21 の などは非常に大きなことです。そのすり合わせも必要だと申し上げた。専門委員会でも、内容的にもスケジュール的にも相当きちんとしなないといけないんじゃないかという議論がかなりありました。

【北村委員】

観光協会でございます。7ページの豊富な歴史遺産の調査結果ですが、平等院さんが8割を越えて一極集中しているということで、これはもう当然皆さん周知のことと思います。ただちょっと気になりますのは、第1回でもちょっとご指摘させていただいたんですが、三室戸寺さんと萬福寺さん、この数値が非常に低いんですね。調査期間は11月から12月の13日間、1月から2月にかけての21日間、黄檗山萬福寺では4日間のみ実施されています。日曜日なんかは、やっていられないということで、この統計のとり方、聞き取り調査の場所によって結果が変わってくるのは当然です。面の観光を推進したいと考えている中で、観光協会が持ち合わせる資料としては、三室戸寺さんは20万人、それから黄檗山萬福寺さんは10万人というふうに把握しております。ちょっと余りにもこの数値が低すぎて気になっていて、今後10年間、この23年度宇治市観光動向調査結果と計画がついてくる。但し書きで、調査期間は通年の数値ではございませんとか、何か書いていただいたほうがよいのでは。特に私、気になりますのは黄檗山萬福寺。あのあたりの萬福寺周辺、JRの黄檗駅周辺は景観計画の重点地域に指定されていまして、今後ますます期待している場所でございますので、ちょっとこの辺、気になるんですが。

それと、もう1点、28ページ、安全、快適に市内を観光できる環境の整備。12番は観光駐車場の確保についてですが、観光協会におきましても市役所の臨時公営駐車場、これはぜひ何とか確保していただけないかという部分です。その辺、取り上げていただけないかなと思います。それと、安全な観光地づくりというところで、道路の整備、遊歩道の確保とか、その辺ですね、お願いしたいのは。それから、快適で安全な観光地づくりとなっていますが、やはり既存トイレの改良とか洗面所。また、お茶づくしということで、給水場、給茶器など。何も急須できっちり入れたお茶じゃなくても、お茶を飲む機会、お茶に親しむ、その機会を増やすということで、テレビで宇治の小学校では蛇口をひねればお茶が出る、すごいことだなといって東京方面がすごい反響だったんですね。だから、観光休憩所にも蛇口をひねればお茶が出ると。越後湯沢へ行ったら、駅の中で百十何種類のお酒が全部飲めるんですね。だから、ペットボトルであったり、給茶器から出るお茶であったり、休憩所に給茶器を置くとか、お茶を飲む機会をいろんなところでつくる。これが観光地に必要じゃないかと思うんです。それと、バリアフリー。これはもう、どこもうたっているんですが、やはりバリアフリーのモデルコースを1つでもつくるとか、こういった目標が何か必要。どこがモデルコースでいいのかとか、もうちょっと具体的などころ、突っ込んだところが欲しいなと思うんですよ。以上でございます。

【神居委員】

行政実施主体というのを、具体的に、例えば括弧して都市計画課と商工観光課とか、そういった具体的なのは書けないんですかね。

【事務局】

今のところ、そこまで具体的に書くのは考えていないんです。

【山本副委員長】

25ページの1番のところなんですけども、実施主体が行政となっていて、次年度まだ設計しないようなんですが、神居先生がおっしゃったように、どこが主体になるのか。また行政だけでいいのか。我々の意見はどこで反映させていただければいいのかということ、ちょっとお聞きしたいと思います。

【木下委員】

太閤堤の記述は、まだこの程度しか書けていないというのが現実なんです。これからまさに施設をどういうふうにするかとか、いろいろ決めていく過程で、まずは我々の考えている内容を市民の方、それから業界関係者の方にもお示ししていく機会をどこかに設けないかんやろうなというふうに思っております。

【山本副委員長】

トップが変わられたということで、トップの考えもあろうかと思しますので、今、木下委員がおっしゃいましたように、ぜひまたお聞かせいただければと思います。

【坂上委員長】

行政は環境変化によって表現方法がどこまで書き切れるかというのがあるかと思しますので、この辺はもう事務局にお任せをある程度して、行政内部での整合性をとっていただいた表現をせざるを得ないというのは思っております。ただし、実施に向けては、しっかりと関係者の利害調整もしっかりされるというふうに理解をしておいていただければと考えております。そのほか、ございませんでしょうか。

【神居委員】

これ、いかがでしょう。計画の位置づけの中で、宇治市の観光は京都府下にとっても非常に重要であるとか、そんな一文をどこかに追加してパブリックコメントを求めてもいいんじゃないかなと思っております。

【森委員】

ちょっと宇治茶の話から外れて、パブコメの資料の関係について発言させていただきます。さっき神居委員もおっしゃっていたんですけど、資料2の概要版、これを拝見すると、市民は何を見ればいいかが、やっぱりわかりにくいと思うんですよ。それで、変な話ですけど、計画の位置づけ、計画の期間というのは、説明的な部分というのは、行政文書としてはこの順番で正しいと思うんです。けれど、やっぱり市民の方に見ていただくときに、何が前回の計画との大きな変更点なのかということが柱で10項目ぐらいわかるよう方がよい。先ほどのコンセプト案が何になるにせよ、例えば、みんなでつくる宇治のまちなんだとか、一人一人にできることをやろうとか、まちづくりのスローガンになるような、また来てもらえる宇治にしようとか、知る人ぞ知る宇治

とか、何でもいいですけど、例えば市民は何を見ればいいのかということも、もうちょっとわかりやすくできないのかなと思います。先ほども言った源氏物語のまちから宇治茶のまちへというのは、もしかしたら、ものすごく大きな変更点となる。もちろん、源氏物語のまちということがなくなるわけではないので、そう言い切れないところは行政的には苦しいところだとは思いますが、でも例えば、そういうところを重点化しますとか、あるいは文化的景観、景観を生かした観光地づくりとか、歩いて楽しい宇治のまちとか、いろいろ今まで出てきていますよね。何かそういうことを、この1ページ、2ページにのせる。1、2ページは、ほとんど難しい話なので、興味がある人は読んでくださいで後ろにあって良くて、読んでもらいたい順に最初から載せられないでしょうかというのがお願いです。1、2、3はあんまり要らなくて、4、5、6を読んでほしいし、その柱立てを何かもう1ページつくって、ちょっと市民の方に見ていただくという。この1ページだけ見れば何が書いてあるかわかるみたいな、何かそういうページをつくっていただくことはできないのかと。それをここにいらっしゃる委員、専門委員が関係団体、関係地域に持って帰って自らもパブコメを取って帰ってくるという。そういう仕組みにできるのが一番いいかなと思います。

【坂上委員長】

ありがとうございます。パブリックコメントは、今日の資料ではなくて、もう少しまとめた資料をおつくりになるご予定でしょうか。

【事務局】

市のパブコメのやり方として、主な公共施設のほうに初案と、あとそれに対するご意見をくださいというような形で1枚ペーパーを入れているんです。全部読んでいただくことは、なかなか難しいということで、この概要版をつくったんです。我々としてはかなり一般の計画に比べたらわかりやすく作ったつもりではあるんですが、ご指摘のように、まだそれでもわかりにくいよ、何を求めているんだというご指摘は確かにあるかと思いますが、ちょっと短期間の中でできる範囲も限られているとは思いますが、できる限り工夫はしていきたいというふうに考えております。

【坂上委員長】

ぜひ、またパブリックコメントに関して森先生、少しご指導いただければありがたいかなと思います。そのほか、ございませんでしょうか。

計画の実施に当たりまして他の自治体等でよく問題になる点を、若干私のほうでご説明したいんですけど。体系化したときの弊害というのが生じることがありまして、すぐにできるのにメニューに載っていないものが出てきたりとか、あるいは体系を追い掛ける余り、実行面がなかなかうまくいかないという、そういうことがあるので、今森委員もおっしゃられた、すぐにやるべき、できるところは迅速に実行するということを持っておかないと、実際の場合で非常に困ることが多くでてくる。例えば、計画を立てて5年、10年たったけど、本当にできたことは実はわずか。少しずつやっているが、達成率というか達成感というふうに捉えると、なかなか進んでいないと

ということが実際の例でございますので、その辺のところを柔軟に対応できる仕組みを何かぜひ考えておかないと駄目かなというふうに思います。

もう1つは、実は推進する方々に問題がございまして、あまり観光業界をわかっていない方に、旅行、観光のプロの人たちが来まして、予算だけ取っていった実際の効果はあまりない。例えば、東京で派手にこんなやりますと。これで500万とか1,000万かかりますと。やった事実はあるんですけど、じゃあそれでどれぐらい人が来ているのか、よくわからない。あるいはモニターツアーをやって旅行代理店で200人来ました。これに400万かかりました。1人2万円お金使いました。しかし効果はどうなのか。結構プロの人たちからの企画提案がテーマに基づいてよくやってきます。これに予算をついてしまいますと、多くの予算が消えてしまうのが現状でたくさんあります。やはり、そういう意味で、例えば広報をやります。じゃ、宇治に来ていただきたい人が読んでいる本はどれなのかというマーケット分析、メディア分析しないと。メディアがわかっていないと無理なんです。よくあるのは、るぶとか全国の書店に乗っている本にご当地版つくります。これは有料でつくられるんです。これを実際やります。しかし、これらの類のものは全国にたくさんあります。だから、情報価値が実はあんまりないと言われている。むしろこだわりの1冊をつくったほうが、よっぽどいいということもいわれております。むしろそういうのが全国でベストセラーみたいになる場合もあるので、一概に安心してやっているから成功するだろうと一般的に思われているものは、ほとんどが観光の場面では実効性があんまりない場合が多い。ですので、実施で非常に苦労されている方々のご意見を、ぜひお聞きをしながらやられたらどうかというふうに思います。予算1,000万とっても、全くわかっている人が広報をやられるときと、他人に任せてやられるときの費用対効果が全く違い、これで結構、いろんなところでクレームが来て、もうこんな組織はないほうがいいという逆の議論になってしまったりする場合があります。その辺の観光関係のハウトゥをわかっている方々を引き込むか、おられる人を使うか、何かそういう工夫をされないと、やっていることと実効面というのが、乖離がする場面がありますので、それを少し注意されたらいいのかなと思います。

なかなか計画では書き切れないんですけど、常に事業実施面ではそんなふうに思うわけです。だから、観光推進をする人の問題というのは最後に決定的に大きなことです。市の中でも最近、観光をやるのが一番花形で若い人が一番やりたい、希望を出される部署というふうに聞いておりますが、プロパーを育てるとというのが一番大切ではないかと思えます。観光協会に市から職員を人を派遣して、連携させてというぐらいやっていく必要があるかなと思います。ちょっと計画とは違うんですけど、実施面では多分、観光連盟さんも苦労されているかと思えますが、究極のところあるかなと思います。

はい、どうぞ。あと時間、まだ20分ほどございますので、言い足りないところ、ぜひお願いしたいと思います。

【森委員】

ちょっと初案を直していただくのに、9ページと11ページの図は正直言って、ちょっとひどいと思うんですけど。これは何を言いたくて、この図をつけられたのか。近接性というならば、所用時間がなくて、あと宇治に所在する最寄り駅も書き込まれてなくて、ちょっと何が近接性だ

というふうにおっしゃっているのが、この図ではわからないと思います。かなり厳しい言い方をすると、ちょっとこれはないでしょうというレベルだと思います。それで東海道新幹線で大阪から京都駅にいらっしゃることになっているんですけど、つながってはいるけれども、どうなんでしょう。何かもう少し考えていただいて、市民の方が、なるほど、こんな近いんやなど、あるいは近いから何なんだということがわかる図にさせていただきたいと思います。あと、東京とか、滋賀はなくてもいいのかと。京都市さんは京都市、大津、奈良市と組んでいるんなことをされようと動いていらっしゃる中で、宇治の歴史を考えれば、滋賀とのつながりというのは実は非常に深いのではないかというふうにも思う。滋賀はアクセスの面でいうと京都経由になるのかもしれないんですけど、宇治の市民は結構京滋バイパスで草津に買い物に行ってしまうと私自身は思っているんです。もう少しそのあたりの実際の流動性を考えた、何か商圈設定をするような書きぶりに、これはさせていただきたいというのが1つ。

11ページも、駐車場キャパシティーとおっしゃっていながら台数がないということは、どうなんでしょう。所在だけが書かれていても、図で何台入るかがわからなかったら、何のための図かが、ちょっとよくわかりません。あと、これまでに市役所とか公共施設を開放して臨時駐車場を設けていた経緯があるということを考えると、公共施設で活用可能な駐車場の台数というのも本当は入っていたほうがいい。観光としては、既存の駐車場ではここが使ってもらえますということだけ示された図なのかもしれないんですけども、もう少し将来を考えてもらいたいということがあって、最低でも台数はお願いしたいかなと。それがないと、キャパシティーの話になっていないかなと思います。

12ページの写真は差しかえるとおっしゃってましたっけ。差しかえる理由は何ですかという、ちょっと教えていただければ。

【事務局】

この写真、大方道路ばかりになっていまして、違いがわかりにくいなど。ある程度、京阪宇治駅前というのは、橋が見えたり川があったりとか、割と宇治的なところがあるんですけども、特にJRの駅前というのが、どこに来たのかわからないよというようなご意見をいただきましたので、そのあたりが、ちょっとわかりやすくなるような形にできたらなと思っているんですが。

【森委員】

ただ、正直に駅に降り立った最初の一望のときに見える姿は、これということですよ。現実的にはこうなんです。このあたりで何を見せたいのか。これが現実だとすると本当に悲しいなというのが確かにあるので、わかりました。差しかえたほうがいいんでしょうね。

【坂上委員長】

貴重なご意見、ありがとうございます。資料、データについては、また少しご検討ください。ほか、いかがでしょうか。

【神居委員】

今の森委員の意見というのは非常に大切だと思っています。交通駐車場の問題について、例えば交通渋滞が課題となっていると考えるならば、交通渋滞の箇所や頻度、一体どのくらい何パーセントで渋滞しているんだろう、もしくはそこに到達する区間でも一体何が問題なのかということ定義して、今後5年間、宇治市のまちづくりとして考えていただく。またそれらがきつと看板等の問題とかにもかかわるので、そういったことも踏み込んでいただければと思います。他にも近接性についていえば、京都駅からの時間をせっかく出すんだったら、もっと踏み込んで同じ17分で、例えば清水まで行けないけれども宇治には来れるよとか、そんなことも一覧でつくってもいいんじゃないですか。嵐山に行くのに40分はかかるけど、宇治は17分よという一覧化をして、今まで、あ、そうだったんだというところが気がつく契機にしてもいいんじゃないですかね。もう一步踏み込んでもいいような気がいたします。

【坂上委員長】

ありがとうございます。嵐山まで40分はかからないですね。むしろ嵐山と宇治が同じ距離だという、そういうことのほうがいいかもしれませんね。

森委員ご指摘の市民目線というのもあるんですけど、行政資料としては多分、国や府からの補助金をもらうために行政、この資料を見てもらって、いろんな使うということもありますし、国に説明に行ったりとか、そのときには、やはりそういう視点からも行政的に資料として整っておかないといけないので、その点は市民目線プラス、そういう行政的な使い方というのが多分配慮されていて、そういう形になっているのかなという気もいたします。駐車場問題等については、実証実験とかはされておられるのでしょうか。

【事務局】

いや、まだやったことはないんです。

【坂上委員長】

嵐山では、莫大な費用をもらって春のピークのときに実証実験をやって、地域の方々とそのときだけ一方通行の規制をしたりとか、いろんなことを取り組まれているので、ぜひ宇治も何か国のモデル的な地域で、そういう交通対策をやっていただいたらいいかなという気はいたしますけども。それで駐車場の問題を解決していったらいいかなというふうには感じました。

【杉本委員】

茶業会議所の杉本です。お願いなんです。実は来年、全国の茶業者大会を宇治でやらせていただくことになりました。本年は11月の11日に静岡の掛川でございまして、いわゆる市役所の中でも茶室をつくられたり、いろんな形で4万人近くがご参加なされた。私どもも参加させていただきまして、おかげさまで宇治市も甜茶のところで農林大臣賞をいただいて土屋副市長がお見えだったんです。宇治市で来年11月15、16、17日とやらせていただくんですが、実はこれ、昭和29年にやって以来59年ぶりの宇治市での全国大会ということでございまして、ぜひこの会にご参加の皆様方にいろんな形でご協力をお願いしていきたいと。先ほどから私も非常に宇治茶のほ

うへ大きく計画を振っていただいていることに対して感謝すると同時に、宇治市がやはりいろんな意味での、宇治茶については中心でございます。世界文化遺産にいたしましても、コンセプトは、やはり日本茶文化の代表的資産群としまして宇治茶と喫茶文化の発祥と継承の地という形で世界文化遺産の何とか宇治茶を目指しているわけですが、あくまで宇治ということでございます。戻りますが、15、16、17。今まだ来年の計画の段階でございますが、文化センターで行事をさせていただくと同時に、宇治駅から宇治橋通り、そして市役所、産業会館、このあたり一帯、多分、平等院さん、あるいは宇治上神社さんのほうが工事中ということなので、どうしても平等院、もちろん宇治橋も絡めての発想になろうかと思うんですが、いずれにいたしましても歩行者天国あるいはスタンプラリー、あるいは効き茶巡り、そして17日が宇治市の文化賞の発表式と聞いております。これに合わせて、やはりお茶の講演会、いろんなことも考えていきたいと思いますので、まず来年度より振興計画が入っていかれる第一歩ということで、ぜひ行政さん初め観光協会さん、いろんな形でお願いにあげたいと思いますので、その節はどうぞよろしくお願ひしたいと。

【坂上委員長】

ありがとうございます。実は、このようなことを観光が進んでいるところでは会議・コンベンションの支援制度というのをつくっているところが多数ございます。今おっしゃられた関係でいえば、単費予算を取らないといけないんですけども、ちゃんと制度をつくっていたら、例えば、何人以上の人が何回集まれば無料でガイドをつけますとか、会議室のどこか借りるときは市が支援しますとか、そういうふうにしてすべて制度化してやっているところがあります。ぜひ単独で取らないといけないことがないように、何かその辺のところは今、フィルムコミッションだけのようですけれども、もう少し実はコンベンションに来られる方々は、いいお客さんへの口コミ効果が非常に高いので、またそのようなことも踏まえて、少し検討されたらどうかなと思いました。ありがとうございます。

【神居委員】

5万人規模ですか。

【杉本委員】

いや、目標は3万です。本年やられた掛川では、こういう職業新聞でございますけど、こういう形でやられまして、4万7,000と書いておられます。私ども、宇治橋商店街さんとか、いろんな形で中宇治を挙げてご協力いただけたらなど、こう考えておりますので。

【坂上委員長】

ありがとうございます。京都でやるのは、学会でも何でも全国よりはるかに人数が多いということですので。そのほか、ございませんでしょうか。

ほぼ予定の時間が参りましたので、引き続いて次第の3番目の今後のスケジュールについて。今日、私の予想に反して多くの意見が出ましたので、今後のスケジュールについて事務局のほうからご説明をお願いしたいと思います。

【3.今後のスケジュールについて】

【事務局】

《資料3》の説明。

【坂上委員長】

ありがとうございます。今後の予定について、よろしいでしょうか。私としては、今日でこの会議を終えて、あとは事務調整で済むかなと思っていたんですが、皆様のご意見をお伺いすると、やはりもう1回開いたほうが良さそうですね。じゃ、この事務局の予定どおり、3月にもう1度、この会議を開催していただくということでよろしいでしょうか。事務局のほうは特に？

【事務局】

我々のほうは、3月の日程調整をまた別途させていただきたいと思いますので、よろしく願いしたいと思います。

【坂上委員長】

それでは、続いてその他に移りたいと思いますが、何でも結構でございます。何かありましたらご発言お願いしたいと思いますが。行政の方はよろしいでしょうか。

それでは、次回のスケジュールの日程調整は、また後日ご案内いただけるということで、よろしいでしょうか。

【4.その他について】

【事務局】

はい、本日まだちょっとできておりませんので、別途お聞かせいただきたいと思います。それと、本日たくさんご意見いただきました。できる限り我々も調整して反映できるようにしたいと思います。ただ、一部におきましては、なかなか文言の表現のところできない部分、あるいは進行管理の中でやらせていただきたいといった部分も出てこようかと思っておりますので、そのあたりにつきましてご容赦いただきたいと思います。それと、併せまして、本日先ほどもちょっと出たんですけども、市長が変わられるということもありまして、その中で一部、例えば市長の思いでありますとか、そういったところをもう少しつけ加える必要が出てくる場面もあろうかと思えます。そのあたりにつきましては、この場のご意見の反映、あるいはそういった若干の修正等も含めまして、最終的に事務局で整理いたしまして、その内容を委員長のほうにご確認いただきたいと思いますというふうに考えております。

【坂上委員長】

はい、ありがとうございます。今日の資料は専門委員会のほうでも議論されて提案をされてきております。ほぼ、ネタがもうそろっているんじゃないかなと。あと、どのようにこれを表現していくかというところで、コンセプトであったり、皆さんの思いはほとんど出尽くしているかと

思います。今の計画、かなりいいものにでき上がっているかと思しますので、さらにより良くしていくために、ぜひまたご協力をいただきたいというふうに思っております。

今日は本当に年末のお忙しい中お集まりいただきまして、誠にありがとうございました。それでは、これにて第4回の宇治市観光振興計画策定委員会を閉会させていただきます。ありがとうございました。

了